

大学図書館問題研究会

京都支部報

No. 5

1979.10.15 (月)

京大経済学部図書室

京都市左京区吉田町 発行

京都支部第2回支部総会

◇ 1979年10月20日(土) PM.2:00~5:00

◇ 京都大学付属図書館会議室

議事日程

2.00 開会

あいさつ

2.20 経過報告と方針提案

2.50 討論

4.20 会計報告

討論

4.30 採決

4.40 支部委員の選出

第1回支部委員会

4.45 閉会

第2回支部総会

I. 経過報告

(1) 日誌

1978.8.4~6 ・大図研第9回大会(大阪)

10.21(土) ・大学図書館員の集い(京大) 講演「図書館の自由について」(森耕一) 8大学32名

・大図研京都支部結成総会, 世話人会選出

10.28(土) ・第1回世話人会(立命大) 活動の基本方向と任務分担をめる

・『京都支部報』第1号発行

11.13(月) ・『京都支部報』第2号発行

11.25(土) ・第1回交流会(立命大) 6大学15名

・第2回世話人会(立命大)

12.16(土) ・第3回世話人会(竜谷大)

12.23(土) ・京大大型計算機センター見学と懇親会(このえ)

1979

1.10(木) ・『京都支部報』第3号発行(会員各簿)

1.20(土) ・第4回世話人会(京大)

2.24(土) ・第1回例会(教育大) 「大学図書館の動向」
(京大・田中穰=) 「大学図書館と利用者」
(立命大・若井勉) 6大学20名

2.24(土) ・第5回世話人会(教育大)

3.17(土) ・第6回世話人会(京大)

4.21(土) ・第2回例会(婦人センター) 「NCR新版
(予備版)の歴史的背景(竜大 吉野和夫)

7大学20名

・第7回世話人会(婦人センター)

5.2(木) ・『京都支部報』第4号発行

5.19(土) ・第8回世話人会(京大)

6.16(土) ・第3回例会(京大) 「図書館の自由宣言につ
いて」(府立大・瀬井忠志) 7大学13名

・第9回世話人会(京大)

7.14(土) ・第10回世話人会(京大) 第2回総会議案

8.19(日) ・大図研第10回大会(秋田県ゆらび座) 大
-21(水) 沢、片山、白神、成山

9.22(土) ・第11回世話人会(京大)

(2) 会 員 ()内は第11回総会時

京大 27(27) 池坊 1(0) 精華短 1(0)

工繊 2(2) 同大 3(1) 滋賀医 2(2)

教育 1(2) 竜大 5(3)

府大 1(1) 立大 7(4)

計 50(42)
10大学 (8大学)

(3) 特 徴

1. 支部結成
2. 活動がほぼ軌道にのる
 - 世話人会 11回
 - 例会・交流会 4回
 - 懇親会 1回
 - 支部報 5号まで
3. 私学での加入者がふえる

II. 活動の方針

(1) 活動の基本

1. 大学図書館員同士の交流を密にする
2. 各大学図書館の伝統と活動について理解を深める
3. 大学図書館の諸問題について認識を深め、その解決のために共同する
4. 大学の社会的機能としての学術研究や教育の問題とともに広く社会の文化的諸問題についても生き生きとした関心をもつて活動する

(2) 活動の課題と具体的なすすめ方

1. 会員間の自由な交流と創造的な研究活動をするため

① 例会を隔月に開く

② 小グループによる研究交流を活発にする

・自主的にテーマをきめ、会員同士で連絡をとりあ
って研究をする、支部委員会に反映する

③ 各会員の研究活動をはげます

④ 研究成果を『大学図書館問題研究会会報』に発表
する

⑤ 大阪支部と共同例会などを開き、交流を深める

2. 各大学図書館を知り、日常の図書館活動に役立てる ために

① 大図研への参加大学(会員)をふやす

② 図書館見学を系統的におこなう

③ 日常的な図書館活動において会員間の協力をすす
める

3. 大学図書館の諸問題について認識を深め、その解決 へ共同するため

① 国の学術政策や教育問題、大学図書館界の動きに

注意をはらい、情報交換を密にする

② 図書館関係の諸団体と協力する

③ 日教組大学部、私学部、自治労傘下の各組合とも相互に協力する（教研集会、自治研集会など）

④ 利用者（教職員、学生）と話し合う機会をふやす

4. 大学図書館の文化・社会活動を豊かにするために

① 京都の公共図書館問題への関心をもつ（市立図書館、地域文庫、児童館など）

② 図書館員の専門的活動を交流する

③ 大学図書館に関する一般向けパンフレットを編集発行する

(3) 支部活動をすすめるために

1. 支部の運営は基本的には「大学図書館問題研究会」の会則に準じておこなう

2. 総会、支部委員会、例会、懇親会をひらく

3. 日常の運営は支部委員会があたり（支部長、副支部長、事務局長をおく）

4. 支部ニュースを発行する

5. 支部財政は還元金を基礎とする

Ⅲ 会計報告

収入の部

支部環元金 22,400

繰越金 50,674

合計 73,074

支出の部

郵送料 1,294

会議室使用料 2,200

例会資料代 1,800

次期繰越 67,780

73,074

Ⅳ 支部委員の選出

近畿各府県の大図研の交流を！

滋賀医科大学 岩本速九雄

私は今年の4月、新設5年目の滋賀医科大学に移り、京都支部に参加させていただくことになりました。

昨年は大阪、京都に支部が誕生し、兵庫でも毎月懇談会が積み重ねられ、今年11月に兵庫支部が榮定する予定とまっています。そして三府県でそれぞれ特徴ある活動が展開されています。

今から4年前の1975年7月、近畿各府県の大図研会員が集まって、近畿地区の大図研の活動について話しあったことがあります。その結果、各府県で例会を積み重ね、支部結成の準備をすすめると同時に、各府県より選んだ代表世話人を通じて月1回情報交換をおこない、必要に応じて年に2回程度、近畿地区として、全体会、問題別・設置者別等の集会などをもとうということになりました。

その後、この中合わせにしたがつて、各府県の代表世話人が集まって何回かお互いの情報交換をおこなったことがありましたが、その世話人が病気で倒れたり、転場を変えたりなどの理由で、近畿ブロックとしての活動はたち消

之になり、それぞれの府県で例会の積み重ねや支部結成準備の活動におわれることになったわけです。

しかし、三府県でそれぞれの活動が軌道に乗り、足並みをそろえてきた今、再びあの最初の申合わせを実現できる条件がととのってきたのではないのでしょうか。

私が阪大にいますとき、兵庫の全国委員の田中さんから、三府県の交流をおこなってはどうかという提案を受けたことがありますし、京都からもそのような希望をきいたことがあります。大阪でもそれに対し積極的に対応するということに決めています。

約100名の会員を擁する17歳各府県において、各支部の自主性や独自性を尊重しながら、1975年の申合わせのように、情報交換、活動の交換、共同の研究集会などがおこなわれるようになれば、大学図書館の民衆的発展、大図研の強化に大きな力となるのではないのでしょうか。ぜひ実現させたいものです。